

2021.3.22

ご報告：第 19 回 3/20 働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

第 19 回働学研（月例会）が 3 月 20 日（14 時～17 時）、オンラインにて行われました。今回は、国際文化政策研究教育学会の研究交流集会（3 月 20～21 日）のプログラムの一環として開催されたものです。

参加者は 34 名に上り、初参加も 11 名おられて、過去最多となりました。20 歳代から 80 歳代にまたがり、85 歳を超える長寿者も 4 名おられます。

（敬称略）池上、井手、井本、岩田、大迫、太田、小野、大日方、片山、金井、聴濤、岸本、木林、倉橋、小宮、澤、白石、杉山、高松、趙、程、冨澤、中谷、中野、野澤、濱、平松、藤岡惇、藤岡純一、三輪、守友、横田、十名。

報告者は 10 名で、20 歳代から 70 歳代まですべての年代にまたがっています。

月例会にもかかわらず、短期間のうちに、報告資料 16 本が揃いました。いずれも力作ぞろい。学会プログラムに組み込まれ、参加者も多く見込まれるなか、気合が入ったとみられます。

第 1 分科会（書評会）は、単著書を出版された 2 人（杉山、冨澤）が、相互に書評を行い、リプライし合う。それらに対して、太田さんが総括コメントする。それぞれが文書として事前に提出されるなど、すべて公開方式です。このようなスタイルは、おそらく全国でも初めてでは。熱気ムンムン、真剣勝負の磨き合いとなりました。社会人博士 3 人の底力をあらためて感じた次第です。

第 2 分科会は、ICT 論の視点から資本主義・情報・生産力・物質代謝などをめぐる発表と議論が展開されました。斉藤幸平本へのユニークな書評（平松）、平松論文 & 十名論文に対する新進気鋭のコメント（澤・木林）、それらに対するコメント & リプライ（十名）、まさに三つ巴の対話をめぐって、議論は想定以上に白熱したものとなりました。「実に刺激的」「興味深い」「軍配はいずれに？」など、多様な感想・コメントが寄せられました。

第 3 分科会は、アラサーから 70 歳代にまたがる女性研究者の報告で、女性パワー爆発といった感慨も。程報告（中国ごみ問題）は、オリジナルな博論体系を提示し、これから仕上げに向けての決意表明。井手博士は、コーチング論の分野での多彩な体験をふまえ、次の本に向けての構想を披露。横田報告（人類進化と家族）は、終章の全体像とエキスを提示され、今後、大著の洗練化へ。

盛りだくさんの内容で、1 つの分科会だけで 2 時間以上は欲しい。それを 1 時間に抑えるという難しい注文でした。報告者と参加者が一体となって、何とかこなすことができたのでは、と感じています。しっかりした報告資料がベースにあって、できた離れ業といえま

しょう。

多くの参加者に深い感銘を与えたようで、報告者各位もそれぞれ手応えを感じられたと感じています。毎回、試行錯誤の連続ですが、働学研の挑戦に新たな 1 ページを刻むことができました。下記は、報告者・テーマの一覧です。

3/20 第 19 回働学研（博論・本づくり）研究会

14:00～17:00 司会：十名直喜

14:00～ 第 1 分科会「文化的&創造的な地域・産業づくり—杉山・冨澤本書評会」

- ・杉山友城[2020.2]『地域創生と文化創造—人口減少時代に求められる地域経営』晃洋書房
- ・冨澤公子[2020.6]『長生きがしあわせな島<奄美>』かもがわ出版

著者 2 人（杉山・冨澤）が相互に書評&リプライしあう。それを基に、議論する。

- ・コメンテーター：太田信義「総括コメント」

（各書評 10 分・リプライ 5 分 / 本、コメント 10 分 + 議論）<60 分>

15:00～ 第 2 分科会「資本主義と人間発達 —生産力&物質代謝論の新地平」

- ・平松民平：「書評 斉藤幸平『人新世の「資本論」』」
- ・澤稜介・木林威夫：「ICT が促す産業・社会・労働の変容」
- ・十名直喜：「ICT と生産力・技術・労働・物質代謝論 — 平松民平「資本主義と ICT」論をふまえて」

（各発表 10 分・質疑応答 10 分：各 20 分） <60 分>

16:00～ 第 3 分科会「環境・経営・家族 — 女性の眼差し」

- ・程 遠紅：「中国ごみ問題の博論体系（序章）」
- ・井手芳美：「歴史上の偉人に学ぶコーチング論—企業の人材育成に向けて」
- ・横田幸子：「人類進化と家族 終章」

（各発表 10 分+質疑応答 10 分：各 20 分） <60 分>